

フランス・ボルドー 政治学院にて

人事院長期在外研究員(仏ボルドー政治学院)

尾崎 敦子

OSAKI Atsuko

平成21年 10月 総務省採用
 情報通信国際戦略局国際政策課
 平成24年 5月 総合通信基盤局電波部電波政策課
 国際周波数政策室
 平成26年 8月 情報通信国際戦略局国際政策課
 平成28年 7月 情報通信国際戦略局国際政策課 I TU係長
 平成29年 7月 現職



Week Schedule

- Mon フランス及びEUの農業政策に関する資金調達システムについて学びます。
- Tue 教授の研究室で、非関税障壁に関するEU判例についてディスカッションします。
- Wed 中国の憲法改正を受け、改正の意図や今後の影響等について議論を深めます。
- Thu 授業の合間に来週の日曜日のゼミ発表の打ち合わせをし、本日最後の授業、乗馬へ。



- Fri 欧州人権裁判所に提起された訴訟に関連し、関係条約について研究を深めます。

■行政官が何故海外留学するのか

私は行政官長期在外研究員として、フランスのボルドー政治学院において、データに関する法政策の研究をしています。入省後、欧州各国やEU、情報通信技術 (ICT) のための国連専門機関であるITUとの交渉を担当してきました。その中で、情報通信分野における欧州との関係及び国連の公用語の一つでもあるフランス語、これらの重要性を再認識し、将来的に国際機関等へ派遣されることも視野に入れ、フランスのグランゼコールで研究することにしました。

現在は、ネットにさえ繋がれば、世界中と簡単に繋がることができ、情報を得ることも可能です。しかし、各国との交渉の中で、何故彼らがそのような発言をし、交渉態度をとるのか、そのような機微はやはり現地に来て、この環境で彼らと生活する中で得心することが多々ありました。そもそも日本とは学び方からして異なるフランスで現地の様子を徹底して学ぶことにこそ、行政官が海外留学する意義があるのだと思います。

■やりがい×成長の機会＝総務省

私が総務省への入省を希望したのは、情報通信が既に我々の生活に欠かせないものであり、また今後も(少なくとも当分は)時代の最先端であり続けると思ったからです。自分も含め国民の幸福に寄与できる職務であるという点にやりがいを感じています。また、学生時代は、国際関係は外務省の所掌だと思っていましたが、総務省でも、国際関係の案件で、世界中で活躍できると知りました。実際、総務省に入省後、私も日EU・EPAの準備交渉、欧州各国との政策協議、ITUでの約190か国が出席する国際会議等で数々の交渉を担当してきました。現在はフランス語のみの生活ですが、私は帰国子女でもなければ、元々語学が堪能だったわけでもなく、仕事を始めてから、身に付けました。同様に、同僚も仕事の傍ら、語学に留まらず必要なスキルの研鑽に励んでおり、そのための研修機会も多く設けられています。また海外留学や民間交流、在外公館や国際機関への派遣等、業務の幅も広く、それだけに成長の機会も多分にあるといえます。

Private Life

授業も試験も全てフランス語で行われ、関係法令や判例も膨大なので、授業の予習・復習は欠かせません。そんな中で、マルシェに行ったり、世界遺産地区や綺麗な村を散歩したり、と時間を見つけては息抜きをしています。また、ホームステイ先の家族、友人らと一緒にお茶をしたり、伝統行事(クリスマス、バック(復活祭))を楽しんだりもしています。

